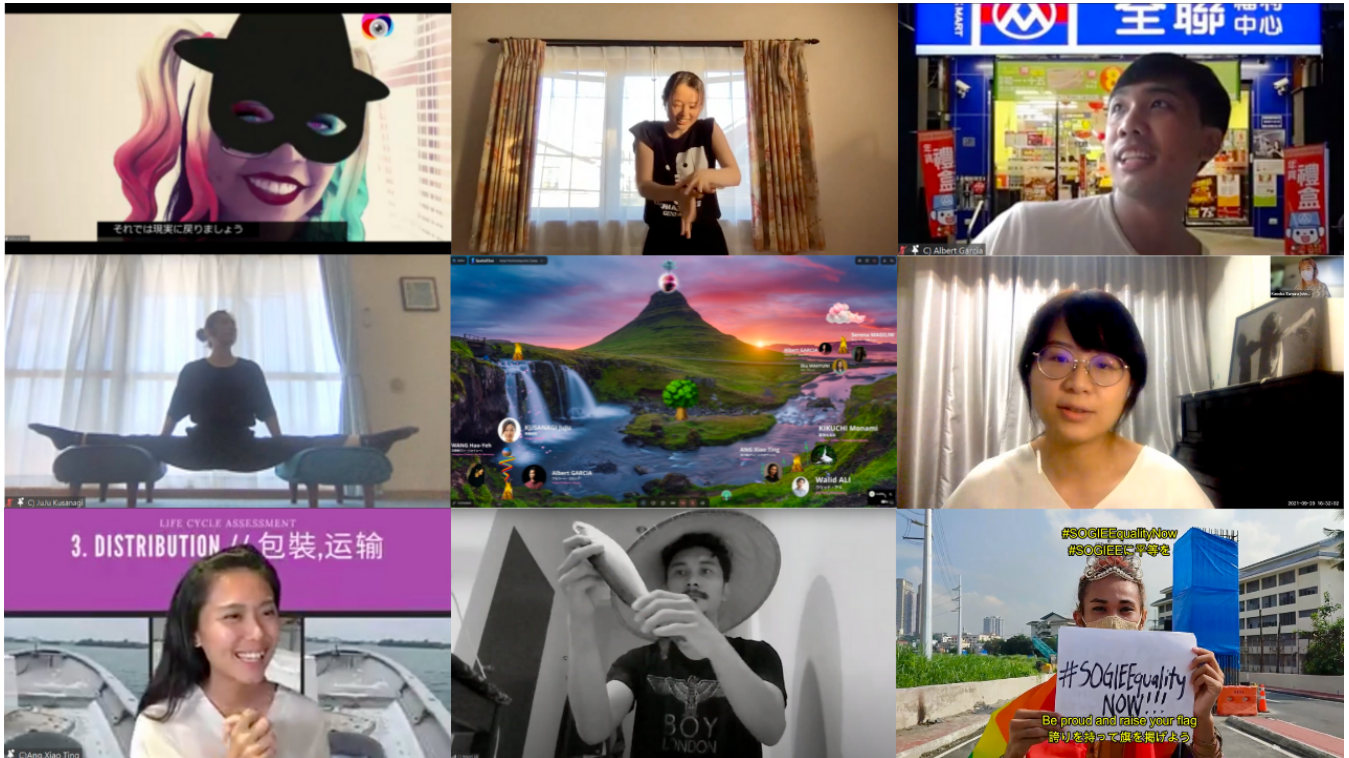


## 東京芸術祭ファーム2022

# Asian Performing Arts Camp (オンライン) 参加者募集

[ 応募締切：2022年6月27日(月)17:00 (日本標準時) ]



## ボーダーを越えて、身体を超えて、アジアの舞台芸術の未来へ

東京芸術祭ファームのプログラムのひとつ「Asian Performing Arts Camp」は、アジア各地で活動する舞台芸術の人材がそれぞれのフィールドでの問題意識やリサーチテーマを持ち寄り、文化や国籍を超えたディスカッション、共同リサーチなどを通じて新たな価値観を育み、今後の自身の活動やフィールドを耕していくためのオンラインでのアートキャンプです。アジアを拠点に活動する演出家、振付家、劇作家、ドラマトルク、プロデューサー等、舞台芸術の企画において重要な役割を果たす作り手を対象に参加者を公募します。

(実施言語：英語 / 参加無料)

### ▶オンライン説明会実施

2022年6月7日(火) 20:00～(日本標準時)

- 東京芸術祭YouTubeチャンネルにてライブ配信(実施言語：英語)
- 詳細は東京芸術祭ファーム Webサイト ([https://tokyo-festival.jp/tf\\_farm](https://tokyo-festival.jp/tf_farm)) にてご確認ください

東京芸術祭 Webサイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)、東京都〕

助成：令和4年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業  
協賛：アサヒグループジャパン株式会社



# Asian Performing Arts Camp 実施概要

東京芸術祭ファーム Asian Performing Arts Campは、約2ヶ月にわたり定期的にオンラインセッションを重ね、参加者それぞれの活動テーマや関心領域を出発点に、レクチャーやディスカッション、協働して行うリサーチを通して共に思考を深めるプログラムです。活動の最後には、参加者全員が期間中に取り組んだリサーチを一般公開のオンラインプレゼンテーションにて発表します。期間中はファシリテーター2名が参加者に伴走し、国や文化を超えた協働の可能性を共に探求していきます。ファシリテーターは、昨年より継続して山口恵子、また東京芸術祭2021 From the Farm『フレ フレ Ostrich!! Hayupang Die-Bow-Ken!』ディレクションチームのひとりであるジェームズ・ハーヴェイ・エストラダが務めます。

## ■ 東京芸術祭ファーム2022 Asian Performing Arts Camp テーマ

### Performing Hybridity and Prototyping Trans-time

#### ハイブリッド性の上演／「越時的なもの（Trans-time）」のプロトタイピング

Asian Performing Arts Camp ファシリテーター  
山口恵子／ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ

パンデミックそして隔離下の生活のなかで、私たちアーティストはオンライン上での移動とバーチャル空間の可能性に気付かされました。このバーチャル空間の発見は、国境をまたぐことへの制限や、タイムゾーンといった概念に逆らっています。国際的なコラボレーションは、スマートフォンやコンピューターを通して、いつでもどこでも行えるようになりました。国際協働におけるこの新しい領域とそのダイナミズムをより理解するために、今年度のAsian Performing Arts Campでは、以下の2つの言葉について考えたいと思います。

#### ハイブリッド性の上演

複数のものが混ぜられ、個として存在していた時より強くなる性質をハイブリッド性と呼びます。例えば、私たちはオンラインとオンサイト（実地）の実践を組み合わせ、創造における新たなダイナミズムを生成するような、ハイブリッドな上演／プロセスを生み出そうとしています。あるいは国際交流や文化交流全般において、文化横断的な創作のプロセスを通して自らの実践やアイデンティティが緩やかに侵食されていくような状況を許容し、自覚するのも一つのハイブリッド性と言えるでしょう。オンライン環境のもたらす「いつでもどこでも」性は、ハイブリッド性を増幅させるものといえるのでしょうか？ オンライン環境を通して、テクノロジー、文化、あるいは芸術に関して、どのようなハイブリッド性を見出すことができるのでしょうか？

#### 「越時的なもの（Trans-time）」のプロトタイピング

こうした、バーチャル上で「いつでもどこでも」行われる国際協働は、舞台芸術における「いま／ここ」という概念に重要な示唆を与えるものです。そこには、過去から現在へと一方向に蓄積されていく時間を自由に往来し、位置や距離により生まれる時間の差を越える「越時的なもの（Trans-time）」が現れ得るのです。この「越時的なもの」という概念は、私たちにあるパフォーマンスの記録された時間とライブ性、それぞれを再検討させます。そのプロセスを通して私たちは、時間そのものを探究し、移行し、再創造することが可能になるでしょう。パフォーマンスにおける時間という要素の重要性を認識し、越時的なもののプロトタイピングを試みることで、アーティストたちは自らと時間という概念とどのような関係を結び得るかを発見し、国際協働の未来にワームホールを開けることができるでしょう。

Essay question to the applicants:

Write your own project/interest/question you wish to conduct/research in the program which can explore/challenge/enact the key words: **Performing Hybridity and Prototyping Trans-time.**

## ■ 実施内容・方法

全てのプログラムをオンラインで実施（使用予定のツール：Zoom、Slack、Miro、One Drive等）

リサーチ：個人の活動テーマや関心領域を出発点とし、オンラインでのリサーチやオンサイトでのフィールドワークを実施します。参加者同士の共同リサーチの可能性や各々の実践方法も探求しつつ、リサーチの進捗を共有し合います。各自のリサーチは、プログラムの活動時間外に行います。

ディスカッション：オンライン上の複数のプラットフォームを使い、レクチャーやワークショップ、「パフォーマティブ・ハイブリッド・セッション」をもとに議論します。

レクチャー、ワークショップ：ファームディレクターやゲストによるレクチャーやワークショップを実施します。

プレゼンテーション（中間／公開セッション）：リサーチの結果を発表するプレゼンテーションを実施します。「中間セッション」を経て、「公開セッション」へと進みます。公開セッションは一般公開で実施され、ゲストを迎えてのフィードバックセッションも行われます。オンライン配信された映像は、アーカイブとして公開される予定です。

- リサーチに伴うフィールドワーク等に積極的に取り組むことを推奨します。その際は、各地域の社会規範に従い、安全に実施してください。
- 活動日以外も、常時Slack等で情報交換を行います。
- プログラムの活動や参加者同士のコミュニケーションは全て英語で行います。一部スタッフとのやり取りや中間／公開セッション等は、英日通訳を介して実施します。
- 上記に加え、東京芸術祭ファーム参加者全員を対象とした活動に参加します。
  - 東京芸術祭ファーム プログラム共通で実施する活動（顔合わせ、レクチャー、交流会 等）
  - 東京芸術祭ファームの参加者、関係者との交流
  - 東京芸術祭2022 オンラインプログラムの鑑賞

## ■ 実施日程

期間：2022年8月3日(水)～10月19日(水)

### ● Asian Performing Arts Camp 活動日程

活動実施時間は各日3～4時間程度（中間／公開セッション実施日等、左記に該当しない場合もあります）

|                |                                                                    |
|----------------|--------------------------------------------------------------------|
| オリエンテーション      | 8月3日(水)                                                            |
| 前半活動           | 8月5日(金)、8月10日(水)、8月19日(金)、8月24日(水)                                 |
| 中間セッション        | リハーサル：8月31日(水)、9月1日(木)<br>本番：9月2日(金)                               |
| 後半活動           | 9月7日(水)、9月14日(水)、9月16日(金)、9月21日(水)、<br>9月28日(水)、10月5日(水)、10月12日(水) |
| 公開セッション        | リハーサル：10月14日(金)、10月15日(土)<br>本番（一般公開）：10月16日(日)                    |
| フィードバック&ラップアップ | フィードバックDay：10月17日(月)<br>ラップアップ/修了式：10月19日(水)                       |

※活動実施時間は参加者の時差をふまえて調整し、7月末までに参加者へ連絡します（参考：昨年は15:00～18:00（日本標準時）で実施）。

### ● 東京芸術祭ファーム2022 全体 活動日程

|                                     |                                                                          |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 共通レクチャー、<br>顔合わせ、交流会 等<br>(オンライン開催) | 8月17日(水)18:30～21:00（日本標準時）<br>8月22日(月)18:00～20:00（日本標準時）<br>8月29日(月)時間未定 |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|

※上記の他、東京芸術祭のプログラムの鑑賞日程等については、参加者に後日案内します。

東京芸術祭ファーム ラボは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファーム ラボ ガイドライン」（[https://tokyo-festival.jp/tf\\_farm](https://tokyo-festival.jp/tf_farm)）に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。



# ファシリテーターからのメッセージ

## 距離と時と協働の再演習 — 山口恵子

APAFや東京芸術祭ファーム Asian Performing Arts Campに参加したこの二年で、離れた場所にいる誰かとの過ごし方が少しずつ身体に馴染んできた気がしています。画面の奥にいる人と、顔を覗かせるその人の周縁。ひとつひとつの窓に、社会に、ズームイン、ズームアウトする。場所から場所へ移動し、異なるシチュエーションを同時に共有する。非現実的な体験のようにみえて、そこでみたものは今まさに世界の他の場所で流れている時間でした。私たちはこの離れながらも共に居る時間を得た今、何を共にみることができるのでしょうか？

今年は「パンデミックだから」ではなく、意図的にキャンプを完全オンラインで実施します。これは一箇所に集まることの重力に頼り切らない、国際協働の演習。今まで描かれていた境界やカテゴリー、文化や地域性の形が変わり、滲み出した時、その有様に各々の場所からどんな応答ができるでしょう。このオンラインキャンプで得た眼差しがオンサイトの日々でも新たな力になるような、そんな時間にしたいと思っています。アジア各地からのご応募をお待ちしています！



Photo:Koichiro Kojima

### 山口恵子 YAMAGUCHI Keiko

京都（日本）

京都在住、俳優。2011年に演劇グループBRDGを立ち上げ、インタビューやフィールドワークを元に、多文化・通訳に焦点を当てた作品を創作。2020年に日本・フィリピンの青少年と、フィリピンの劇団PETAと協同で『ふれる〜ハプロス』を発表、オンライン作品『HELL0』を配信した。俳優として、松本雄吉、マレビトの会、したため、りっかりっか＊フェスタ（沖縄）の作品に出演する。2017年アジアセンターフェロー。APAF2020 Labに参加し、翌年のAsian Performing Arts Camp 2021で共同ファシリテーターを務める。2021年より青年団演出部所属。京都・東九条のコミュニティカフェほっこりで店員として働きながらラジオを放送したり、NPO法人スウィングでなんちゃって舞妓をしている。

<https://brdg-ing.tumblr.com>

## バーチャルで交差する可能性 — ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ

パンデミックによって、「人間らしさ」のあり方は変貌しました。次なる世界的大変動に備えて、私たちは、自己というものの、そして国際的コミュニティと共に生存するためのプロセスの「プロトタイプ」を作り始めています。今や、空間と時間という概念は以前とは様変わりし、ここ数年の隔離やリモート環境のなかで、私たちはアーティストとしての自我を見つめ直すことを余儀なくされました。内なる自分を見つめ、この危機の中で何が変わったか省みます。自分の暮らす都市から出ることすらせず、バーチャル空間を探究することで、さまざまな時差を越えて協働することが可能になりました。人類は新しい繋がり方や協働の方法を学び続けるなかで、適応を繰り返し、文化的・技術的な掛け合わせ（ハイブリッド）を生み出しています。「時間」はこうした適応と発展における重要な要素です。過去の記録や、現在における行為、そしてライブ性というものの検討を通じて時間という概念をよりよく理解することによって、パフォーマンスの未来にたどり着くことができる「かもしれません」。私たちは今、世界に向けて開かれた窓を目の前にしていますが、それはまさに、可能性の交差するところでもあるのです。この旅程を通して、私たちは、異なるタイムゾーンやフィールドにおけるプロトタイプを共に作るなかで、時間というものの持つポテンシャルを検証することになるでしょう。共に作る未来へと向かうこの交差路に、あなたならどんな手荷物を持って行きますか？



### ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ James Harvey ESTRADA

リサール（フィリピン）

1986年生まれ。演劇、映画、パフォーマンスなど多岐に渡る制作活動を行う。作品に、聴覚障害者のエンパワメントをテーマにした『Hear, Here!』や、ドラッグクイーンに焦点を当てHIV感染者に対する差別撤廃を訴える『Reign-Bow』、フィリピン人海外出稼ぎ労働者の苦境を描く『Maikling Dasal, Mahabang Gabi』など。マニラに拠点を置くコンテンポラリーパフォーマンスカンパニーThe Scenius Pro. 芸術監督。コロナ禍での創作・記録のためのオンラインプラットフォームArtists On Q メディア主任兼ディレクター。アングノの芸術高等学校で舞台芸術を指導。演劇フェスティバルVirtual Labfest 2020（オンライン開催）で作品発表。APAF2019 Labに参加。APAF2020 Exhibitionのディレクションチームの1人として創作したワークインプログレス作品を発展させ、東京芸術祭2021でも上演。

<https://jeymsharbi.wordpress.com>

## 募集要項

### ■ 応募資格

次の1～7のすべてにあてはまる方

1. アジアを拠点に活動している
2. 舞台芸術作品やプロジェクトにおいて創作上重要な役割を果たしている
3. 原則として35歳以下
4. 全ての実施日程（p. 3参照）に参加可能
5. 東京芸術祭が行う広報およびPRに協力することができる
6. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる
  - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
  - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
  - Zoomのグループビデオ通話\*、Slack、Miro、One Drive が利用できる端末（使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり）  
\*Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
  - スマートフォンのみでの参加は非推奨
7. 以下の姿勢および関心を持っている
  - 英語でのコミュニケーションに積極的に参加する姿勢
  - バックグラウンドや価値観が異なる相手との対話を通じて新たな発見を得たいというモチベーション
  - 国際協働におけるコミュニケーションについて考え、実践することへの関心
  - 今後も国際的な舞台芸術の分野で活動を続ける意思

### ■ 参加費 無料

### ■ サポート

- 上限10万円の支給（送金手数料・税金等が引かれることがあります）：インターネット環境の整備費、リサーチ費（資料購入等）、小道具等の作成費として支給
- コミュニケーションデザインチームによるサポート：多文化間のコミュニケーションや英語でのディスカッション方法についてのレクチャー、参加者間でのコミュニケーションのルールづくり、活動内のコミュニケーションに関する相談・対応 等  
※本プログラムでは専門的、抽象的な内容を伴うディスカッションが英語で行われる予定ですが、参加者が英語レベルに関係なく対等に対話に参加できる場を作るため、コミュニケーションのサポートをしています。

### ■ 募集人数 8名程度

### ■ 選考スケジュール

ファシリテーター 山口恵子／ジェームズ・ハーヴェイ・エストラダ、東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介、東京芸術祭ファーム共同ディレクター 長島確による選考を行います。

|           |                                                           |
|-----------|-----------------------------------------------------------|
| 応募受付      | <b>応募締切：2022年6月27日（月） 17:00（日本標準時）</b><br>・オンラインのフォームにて受付 |
| 一次選考：書類審査 | 結果発表：2022年7月6日（水）までにメールにて合否を通知                            |
| 二次選考：面接   | 選考実施日：2022年7月11日（月）～7月13日（水）<br>・オンラインにて実施（使用ツール：Zoomを予定） |
| 参加者決定     | 結果発表：2022年7月20日（水）までにメールにて合否を通知                           |

※採否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。必ず、Farm-Lab オフィスからのメール（farm@tokyo-festival.jp）が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。

## ■ 応募方法

以下、応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

応募フォーム <https://form.run/@camp2022> ※回答は全て英語で記述してください。

### <必要事項>

1. 氏名もしくはアーティスト名
  - 自分に対して使用してほしい代名詞 等 (he、she、they、名前 等 / 自由記述)
2. 国籍
3. 活動拠点 (複数ある方は全て)
4. 生年月日
5. メールアドレス
6. 連絡先住所 (日本在住者のみ / 日本語で記入)
7. 日中連絡のつく電話番号
8. 職業 (所属など)
9. アーティストプロフィール (150ワード以内)
10. アーティスト写真 (画像形式: jpgまたはpng / データサイズ: 5MB以下)
11. ウェブサイト (あれば)
12. これまで関わった作品の動画リンク (YouTube等 / あれば)
  - その作品における自身の役割※必要に応じて閲覧制限を設定してください。
13. 応募動機 (150ワード以内)
14. 「東京芸術祭ファーム2022 Asian Performing Arts Camp テーマ」(p. 2) とファシリテーターからのメッセージ (p. 4) をふまえて、以下のEssay questionへ回答してください。(300ワード以内)

Essay question:

Write your own project/interest/question you wish to conduct/research in the program which can explore/challenge/enact the key words: **Performing Hybridity and Prototyping Trans-time.**

15. 自身の英語でのコミュニケーション力 (選択式)
  - a. 簡単な自己紹介や相手との会話ができる
  - b. ある程度準備しておけば、自分の活動の内容を説明することができる
  - c. 自身の専門分野において、抽象的な概念も用いながら考えや意見を述べることができる
  - d. c. をもとに、議論を発展させていくことができる
  - 上記の回答についての補足 (自由記述 / あれば)
16. オンラインミーティング等に使用する機材 (選択式)

※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」(p. 5)を確認してください。
17. 参加に際して使用するネットワーク環境
18. 二次選考期間 7月11日(月)11:00~17:00、7月12日(火) 11:00~17:00、7月13日(水) 11:00~17:00 (いずれも日本標準時) の内、面接に参加できない日時 (あれば)

※日本標準時で回答してください。
19. 東京芸術祭ファームの他プログラムで応募を予定している、または応募済みのもの (あれば)

※同時募集している他プログラムへの併願は可能です。
20. 応募にあたっての連絡事項など (あれば)

## ■ 留意事項

お預かりした個人情報は厳重に保管し、本プログラムに関する諸連絡以外に使用することはありません。

[お問い合わせ] Farm-Lab オフィス MAIL: [farm@tokyo-festival.jp](mailto:farm@tokyo-festival.jp) TEL: 03-4213-4293 (平日10時~19時)

※記載の情報は2022(令和4)年6月1日現在のものです。内容等は変更になる場合がございます。

## 東京芸術祭ファーム 2022 テーマ 「都市をほぐす／Unlearning Cities」

### 「都市≠集い」

2022 年の東京芸術祭ファームは「都市をほぐす／Unlearning Cities」をテーマに開催します。昨年のテーマ「都市の価値／Why Cities?」での“問いかけ”から、今年は〈都市＝集い〉の価値観を捉え直す積極的な“行為”でありたいという思いを込めました。近年東京芸術祭ファームが取り組んできたオンラインを活用した国際的なプログラムの成果発表を見ても、オンラインの目的や役割が“情報や時間の共有”から“行為や体験の創出”へ変わっているのを実感します。集まらなくてもできることは今後ますます増え、これまでの価値観を手放すならば、もはや都市に集う必要は無い〈都市≠集い〉が前提なのかもしれません。それでも都市が果たせる役割は多様性の担保ではないでしょうか。受け入れる量ではなく幅によって誰もが存在し集まることができる機能には、これからの都市の可能性を感じています。

今年のプログラムでは、国際クリエイションのチームを2チームに増やしフィールドやバックグラウンドの異なるメンバーでの様々な協働の可能性にトライします。

2ヶ月にわたるオンラインアートキャンプはアジアから参加者を公募し、日本国内からは国際クリエイション現場のアシスタント・インターンや一部プログラムへのビジター参加も可能です。学生対象の教育普及プログラムにもご期待ください。そしてガイドラインに基づき、ハラスメントの防止やセーフスペース作り、舞台芸術の環境作りに取り組めます。

先の見えないまま進む 2020 年代、ならば見たい未来を自分たちで作る、東京芸術祭ファームはそのための場所です。ぜひ、お集まりください。

2022 年 6 月

東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介



### 新しい共存と協働の場へ向けて

常識（共通感覚、common sense）が大きく変わりつつあります。アートの現場に限っても、これまで当たり前だと思われていた感覚や考えが通用しなくなってきました。かつて有効だったやり方が、機能しないばかりか、害を与え始めています。それらはおそらくこれまでも無害だったわけではないのですが、なんとなく見過ごされていたのが、いまでは明らかに人を傷つけたり、何かを破壊するだけのものになっています。

こうした感覚の変化はパンデミック以前から始まっていました。それがこの2年半に及ぶ行動様式と価値観の根本的な「洗い直し」により明確になったのだと思います。

この2年半の間にわたしたちが経験してきたのは、新しいことの学習というよりも、知らぬ間にすでに身につけてしまっていたものの「脱学習」、アンインストールだったのだといえます。これまで無自覚に、無批判に、享受し行使してきたものに、いったいどんな価値があったのか／なかったのか、いったん体から抜き、解きほぐし、検証し直す時間でした。そのうえであらためて、フェアで、みなさんの幸福につながるような集団創作や協働の形を、自分たちの手でどのようにして作るのか。他者との共存と交流の象徴としての都市を、どうやって再発見・再構築するのか（する必要があるのか?）。今年のテーマ「都市をほぐす／Unlearning Cities」に、わたしはそんな期待を込めています。

東京芸術祭ファームは、社会全体の大きな変わり目にあって、従来のやり方への違和感と変化への期待をもつ人が集まって、土を耕し、種を蒔き、苗を育てるための場です。われこそはと思う人はぜひ参加してください。

2022 年 6 月

東京芸術祭ファーム共同ディレクター 長島 確





## コミュニケーションデザインについて

東京芸術祭ファームでは、国や文化等の異なるメンバーが集まる国際協働の現場において、その出自や立場に関わらず参加者全員が安心して創作に挑める環境を整えるため、企画の段階からコミュニケーションデザインチームがプログラム設計に関わっています。

2022 年度コミュニケーションデザインチーム

Art Translators Collective

チーフ：田村かのこ

メンバー：山田カイル、水野響、春川ゆうき、森本優芽、植田悠

<取り組みの一部>

### ■東京芸術祭ファーム ラボ ガイドラインの導入、整備

差別やハラスメントなどの人権侵害の発生を防止するためのガイドラインを制定し、東京芸術祭ファーム ラボに関わるすべての人にその遵守をお願いしています。また、ガイドラインの内容は毎年見直し、より良いガイドラインの制定に努めています。

### ■希望するジェンダー代名詞の確認、ジェンダーアイデンティティの尊重

ミスジェンダリング\*を防ぐため、昨年から募集要項には自分が使って欲しい代名詞（代名詞を希望しない場合には名前等）を記述式で書き込めるようにしています。創作期間中も、それぞれの代名詞を尊重するために、知識と意識の共有を徹底していきます。

\*本人が自認するジェンダーと異なる取り扱いをする差別行為（例：見た目で性別を憶測して判断した人称代名詞や敬称を相手に用いる）

### ■言語やコミュニケーションの多様性を尊重したアート・トランスレーション

アジアの国々からの参加者が集まる東京芸術祭ファーム内でのコミュニケーションには、共通語として「英語」が用いられますが、土地や文化により英語のあり方も多様です。コミュニケーションデザインチームは、それぞれの話す英語を尊重し、英語が流暢な人もそうでない人も対等に話せるような環境を設計し、言語の変換にとどまらない通訳・翻訳を行います。また、文化の違い等によりコミュニケーションの取り方もさまざまです。一つの文化マナー（たとえば日本の常識）に人々を従わせるのではなく、それぞれの持ち寄る観点からこの場に必要なコミュニケーションのあり方を探っていきます。

### ■学習機会の提供

以上の取り組み等について、参加者が事前に必要な知識をつけるためのガイダンスやレクチャー、ワークショップを実施します。

## 東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであった APAF（Asian Performing Arts Farm）にフェスティバル/トーキョー（F/T）の研究開発・教育普及事業が合流し 2021 年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリーでさまざまなプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加、レポート執筆など、舞台作品を通して、考え、交流する機会を提供します。

東京芸術祭ファーム 2022 ページはこちら [https://tokyo-festival.jp/tf\\_farm](https://tokyo-festival.jp/tf_farm)